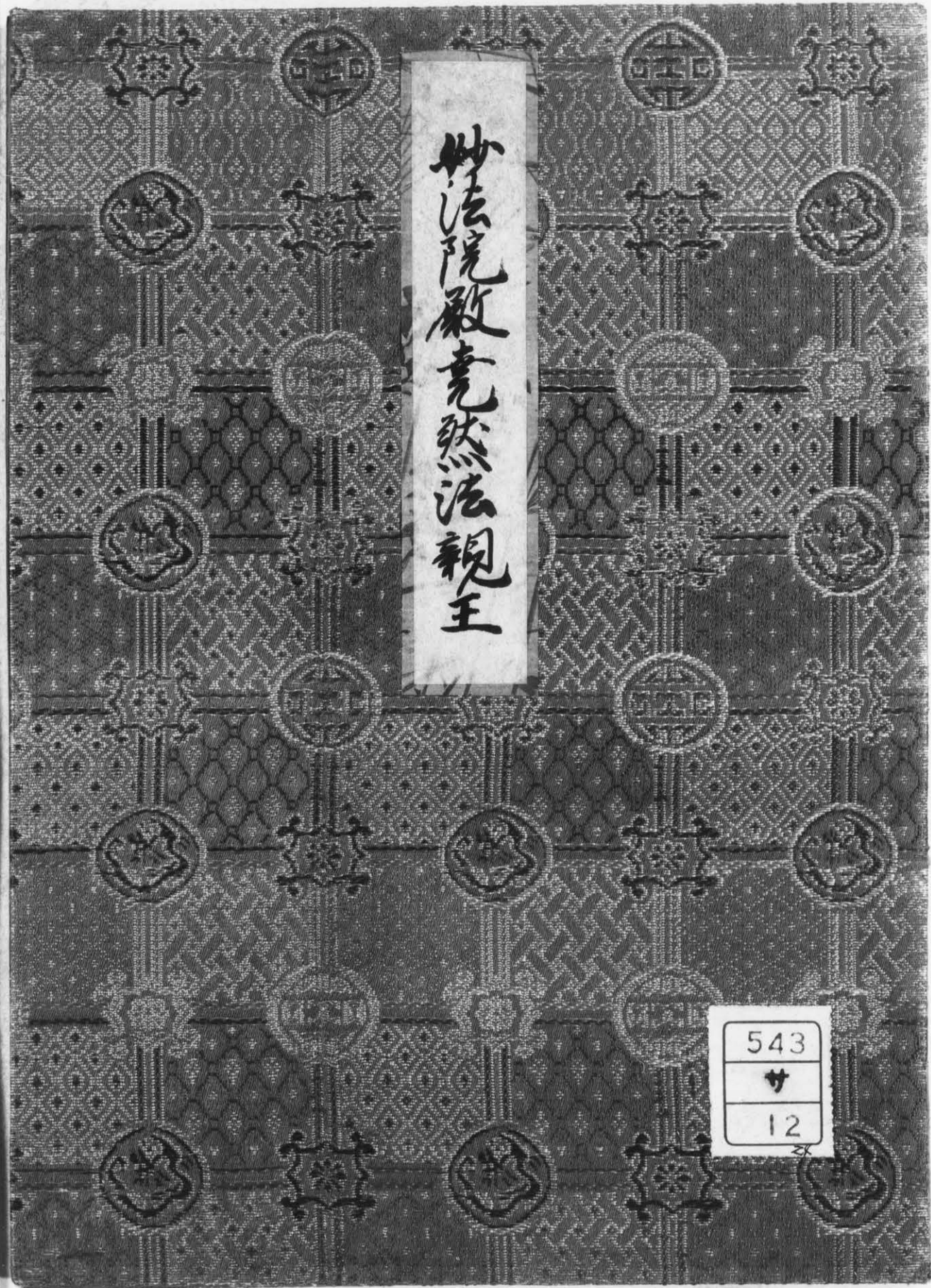


0 150 cm 10 SEKISUI JUSHI 20



妙法院殿 竟然法親王

543
サ
12



蘇款之大概

情以新為先

求人未款之心

詞以高可用

款不可出

建之所用新古今

風神不效堪能先達之秀

哥

不輪古今遠近見

近代之人所款出之心詞

雖一句種可除亦之

七八十年以來人所款出之詞勢不可取用之

古人新者多以其同詞款之已為流例但

取古款款新哥舉五句之中及三句

者頗過分無殊氣二句之上三四字完

之猶事之以同車款古予朝顯無念款
以花款花
月款月以四季款款惠雜予以惠雜予
款四季予如此之時無以古予之雜款
可之予乃山郭云 予乃古乃如
久之月乃時 時乃如五月
五乃如五月
如此事全雜何度不悼之
年乃如春乃如 月乃如五月

小乃如五月乃如 乃如五月

如此之類除二句更不可款之
常觀念古予之景予不保心殊不見習
者古今伊物語後撰拾遺三十一人
集之旧殊上平款不懸心
人唐貫之志卷
非和予之先達時節之景予世同之感
表為和物白白氏文集第一第二情常
可握既 深連和予之心

和歌無師近口心高新為師深
心於古凡習朝也先達者難人
不蘇之哉

秀平之辨大略

隨老昧之覺悟者連之古今相契
狼藉無極歟

春子はつづふいりあやむるの野の
ふもはみこし胡みやう
君のそらなるまは半いしひひ
け、夜の子あふそらあは
梅のそらあふそらあふそら
う新うらふよあは書は
心なるれいしひみあふそら
あまの書なるあふそら

花乃を...
わ身...
あ...
く...
久...
あ...
と...

春...
夜...
あ...
知...
あ...
志...
道...
あ...

山に花風はるるを思ふはるるを思ふ
わづらひありわづらひあり
ふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふら
はるる時ふらふらふらふら
はるるやふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふら

冬は雪はふらふらふらふらふら
あはれふらふらふらふらふら
君ははるるを思ふはるるを思ふ
こころはふらふらふらふら
はるるはふらふらふらふら
とほほほほほほほほほほ
天田の野はふらふらふらふら
春ははるるを思ふはるるを思ふ

るるにちちち野のりし
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと

若の代らにはあつた
 みもあつたに
 未の代らにはあつた
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと
 りしととととととととと

左の如く
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

晨明乃つ建たぬまらるる
あついで評物
名も河津のしめあはれ
今もさういふ
あついで評物
今もさういふ
あついで評物
今もさういふ

華夷の島尻の
あついで評物
今もさういふ
あついで評物
今もさういふ
あついで評物
今もさういふ
あついで評物
今もさういふ

کے لئے ہرگز نہیں
میں نے یہ سب کچھ
کے لئے ہرگز نہیں
میں نے یہ سب کچھ
کے لئے ہرگز نہیں
میں نے یہ سب کچھ
کے لئے ہرگز نہیں
میں نے یہ سب کچھ





未耒耜

前和歌得業と柿本貫躬

春

年々いふはまきりてはかたけ
 らめいふまきりてはかたけ
 うらわゆるいふまきりてはかたけ
 こもあまのいふまきりてはかたけ
 ともいふまきりてはかたけ

草花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに
かへりて 花のしほは 山吹のしほに

花のしほは 山吹のしほに 花のしほは
山吹のしほに 花のしほは 山吹のしほに
花のしほは 山吹のしほに 花のしほは
山吹のしほに 花のしほは 山吹のしほに
花のしほは 山吹のしほに 花のしほは
山吹のしほに 花のしほは 山吹のしほに
花のしほは 山吹のしほに 花のしほは
山吹のしほに 花のしほは 山吹のしほに
花のしほは 山吹のしほに 花のしほは
山吹のしほに 花のしほは 山吹のしほに

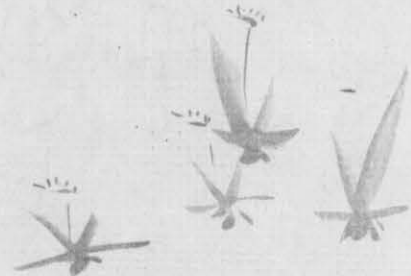
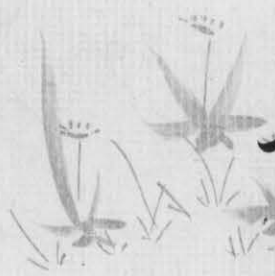
子よみかきしなむら
しつてはなむらむらむらむら
くわらむらむらむらむら

ふさふさし解るまはる
解るまはるしはるまはる
らまはるしはるまはる
こしはるしはるまはる
そ乃まはるしはるまはる
しはるまはるしはるまはる
はるまはるしはるまはる
ふさふさし解るまはる

まはるまはるしはるまはる
しはるまはるしはるまはる
こしはるしはるまはる
そ乃まはるしはるまはる
しはるまはるしはるまはる
はるまはるしはるまはる
ふさふさし解るまはる
解るまはるしはるまはる
らまはるしはるまはる
こしはるしはるまはる
そ乃まはるしはるまはる
しはるまはるしはるまはる
はるまはるしはるまはる
ふさふさし解るまはる

まへにまへに
まへにまへに

藤原朝臣



百人一首

天智天皇

輝乃田乃りかおるのまよひのさ
く衣よあよわは

持統天皇

春ささる夏はよまららんあ乃
あしはなはるふのゆら

柿本人麿

筆のこゝろ山鳥のよき声も
わびしき心もいふも

山邊赤人

田子の浦よりしるはるる
るのよき声もいふも

中納言殿持

かたはるるもいふも
るるもいふも

安陪仲凡

あはるるもいふも
るるもいふも

森頼

あはるるもいふも
るるもいふも

猿丸大夫

あはるるもいふも
るるもいふも

ふよし晴と輝く如く

中納言行年

子くらいついふもよしの著書あはれ
まはすしなほし今人といふ也

在原業平朝臣

子くらいついふもよしの著書あはれ
まはすしなほし今人といふ也

在原業平朝臣

黒い乃岸の

夢のうらみ

陽成院

ほくろはるき

魚とほら

小野小町

花乃文

新身

志操法師

ウ唇部乃身はみしんてんてん

ふんてんてんてんてんてん

信正通和

あほひせきふしんてんてん

てんてんてんてんてんてん

蟬丸

てんてんてんてんてんてん

ふんてんてんてんてんてん

何れかた

みらおころふてんてんてん

うんてんてんてんてんてん

光孝天皇

君たたらまのてんてんてん

ウ長あふてんてんてん

伊規

箱波ふゆふゆののらふ
あふふふふふふふふふふ

元良親王

うのりまの今ふゆふゆふゆ
あふふふふふふふふふふ

源宗千朝臣

山里のふゆふゆふゆふゆ
あふふふふふふふふふふ

素性法師

今ふゆふゆふゆふゆ
あふふふふふふふふふふ

菅茂

こふゆふふゆふゆふゆ
あふふふふふふふふふふ

云生志谷

晨明のつれづれくみそし別ふ

右うおつお坂山乃ほほし
くあいら穂しうさうしし

中納言兼輔

みうつらういひあひしはあ
はみはとちまうあしう

兼儀等

後弟生乃とわさうあふは
のほしうたのあした

文皇朝殿

うらあよせのあしあふ
はわいあなわしあふ

右近

うらあよせのあしあふ
くあいら穂しうさうしし

中納言兼忠

ふまみあう後のあしあふ

たゞしむるにまじりてはなほ

年意感

ふくむ情とまじりてはなほ
しむるにまじりてはなほ

至生忠見

うらむるにまじりてはなほ
人むるにまじりてはなほ

頼徳公

のうらむるにまじりてはなほ
まのうらむるにまじりてはなほ

中納言胡忠

をうらむるにまじりてはなほ
くうらむるにまじりてはなほ

清原元晴

らうらむるにまじりてはなほ
うらむるにまじりてはなほ

深重之

ふかやうなまゝにのみかたは

音好忠

ねんかたはしる舟かたは

大中長能直胡也

御まじりしはたしる舟かたは

ふかやうなまゝにのみかたは

藤原義孝

君のまじりしはたしる舟かたは

ふかやうなまゝにのみかたは

友方胡也

ふかやうなまゝにのみかたは

ふかやうなまゝにのみかたは

友方胡也

新田入江のちよきまき

良選法師

はなはたおもしろきまきまき
まきまきまきまきまき

大納言

はなはたおもしろきまきまき
まきまきまきまきまき

清女納言

はなはたおもしろきまきまき

まきまきまきまきまき

和泉式部

はなはたおもしろきまきまき
まきまきまきまきまき

大貳之位

はなはたおもしろきまきまき
まきまきまきまきまき

赤染清二

あしをくさねはなれしあはれなき
しづかにあはれし月をみよ

紫式部

あしをくさねはなれしあはれなき
あはれなきあはれし月をみよ

伊勢大納言

あしをくさねはなれしあはれなき

あしをくさねはなれしあはれなき

武部内侍

あしをくさねはなれしあはれなき
あはれなきあはれし月をみよ

権中納言之叔

あしをくさねはなれしあはれなき
あはれなきあはれし月をみよ

大京大史道雅

今つゆははるかにあけぬる
人はあはれしくもなほ

同防内信

春のあけはるかにあけぬる
あけぬるあけぬる

大納言信信

あけぬるあけぬるあけぬる
あけぬるあけぬるあけぬる

前大信正行書

あけぬるあけぬるあけぬる
あけぬるあけぬるあけぬる

前大信正行書

あけぬるあけぬるあけぬる
あけぬるあけぬるあけぬる

前大信正行書

あけぬるあけぬるあけぬる
あけぬるあけぬるあけぬる

つぎや袖のりましふくは

相模

つぎやちんちん袖のりま
つぎやちんちん袖のりま

原宿杉胡台

つぎやちんちん袖のりま
つぎやちんちん袖のりま

崇徳院

瀬とるこちやせくは河

つぎやちんちん袖のりま

待賢院橋河

つぎやちんちん袖のりま

つぎやちんちん袖のりま

法華寺入道右衛門尉

つぎやちんちん袖のりま

つぎやちんちん袖のりま

友京大支那補

縁風すゝめおむくまふ今より海わ
か徳出り月乃影のよやうあこ

源道島

あふらるるふ子鳥乃鳴あふり
ふとねさるるとは海の境いあふ

藤原某後

契しついでわさる海と乃はは

のののの乃梅しついでわさる

道国に師

わがまらるるこころはらるるのの
しよふたふらつわらふらふらわ

藤原清輔朝長

わらふ文乃あらるるしつらふ
うしつみせれ今いあらる

後惠は師

母の心をなげきしは
母の心をなげきしは

後法大寺方丈

都ふれははるかに
都ふれははるかに

ふり有月乃月乃の
ふり有月乃月乃の

曾大后乃乃後成

世中と信ふるまじ
世中と信ふるまじ

ふりふりふりふり
ふりふりふりふり

西行法師

あつたつたつたつた
あつたつたつたつた

つらつらつらつら
つらつらつらつら

院別番

新波の昔のわね
新波の昔のわね

あつたつたつたつた
あつたつたつたつた

院大補

みせおれしはるあ
みせおれしはるあ

あはれしき御心御成り候へば

武子内親王

まはらばしき御心御成り候へば

藤原公家

あはれしき御心御成り候へば

二條院讃岐

あはれしき御心御成り候へば

海軍省大臣

あはれしき御心御成り候へば

市僧正意圖

あはれしき御心御成り候へば

氣儀雅也

御吉野乃山の様月と暮らふまゝ
くらゐはははく衣ははは

徳倉右大臣

在中には好よしあしあし
あはのまはははははは

心之位家階

同くはあははははははは

みふいと暮らふまゝははは

権中納言定家

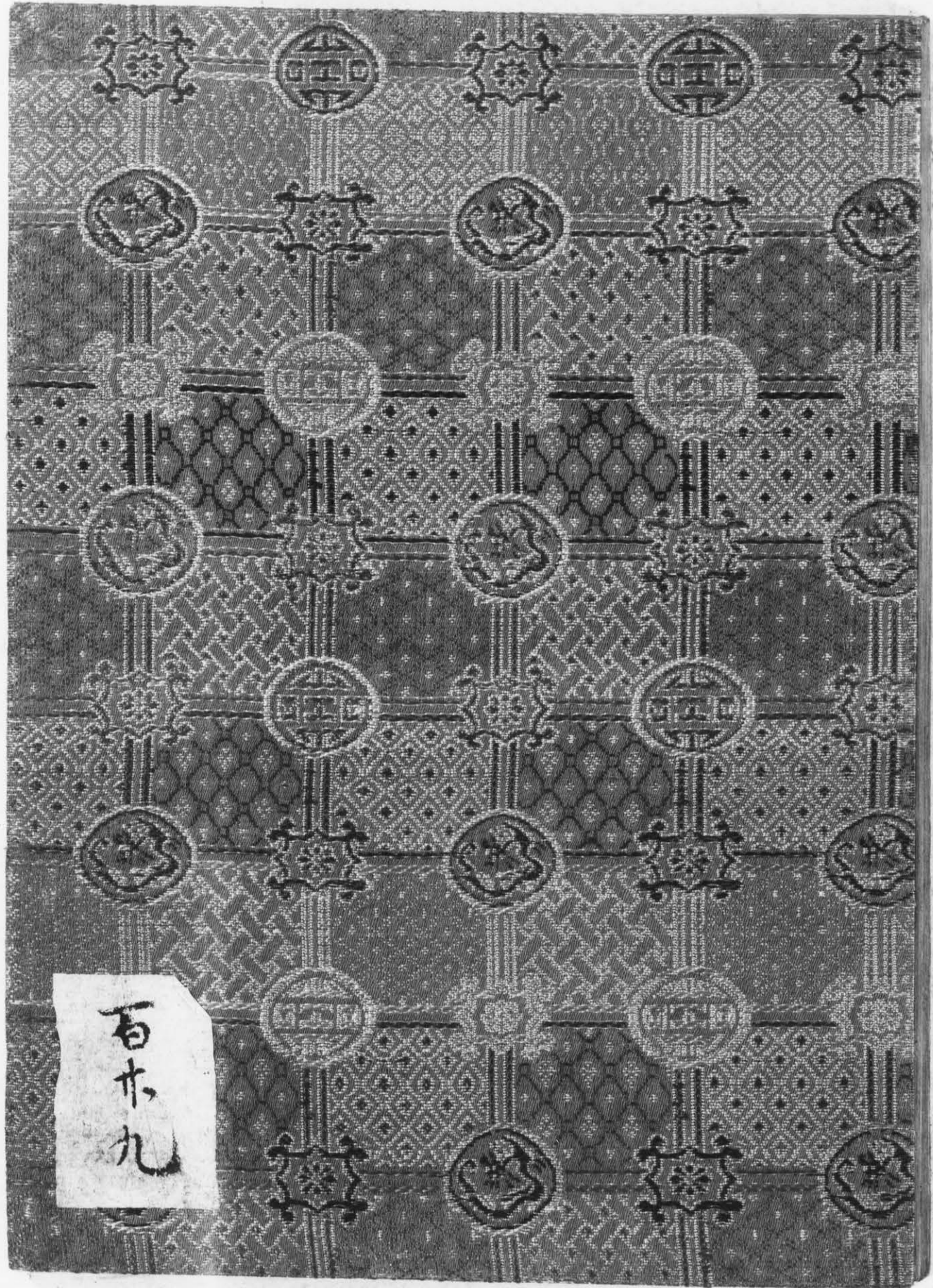
こぬふともはははの浦乃
あははははははははは

入道前大臣大長

花はははははははははは
あはははははははははは

後鳥羽院

九州大學圖書印



百本九